

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

言語系コース(英語)  
／眞野 美穂

## ■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

## 1. 目標・計画

現在、日英語の数の表現について研究を進めている。特に生成語彙理論を使った、数量表現の分析を行っているのだが、現時点でその成果として1本は出版され(共著)、現在1本(共著)が学術雑誌で審査中である。今後は、さらに以下のようなテーマに発展させ、研究を行う予定である。

①助数詞を持つ日本語を対象に、名詞と助数詞の差異を明らかにする。(研究中)

②①の成果をもとに、助数詞を持たない英語を対象に比較研究を行う。

非常に広範囲に及びうる研究課題であるため、共同研究を視野に入れ、研究を進める予定である。

少なくとも①の成果から研究範囲をより具体化し、共同研究者を集められた段階での科研費の申請を考えている。

## 2. 点検・評価

生成語彙理論を使った日英語の数量表現の分析を計画通り進めており、以下の成果を得た。

①学術雑誌で審査中であった論文は採用され、近日発行される予定である(出版社都合で日程が遅れている)。

②11月にパリで行われた生成語彙理論の国際学会で研究発表をおこなった。

上記の研究成果に加え、現在名詞と数量表現について進めている研究では、共同研究者(他2名)と来年度学会でワークショップを開く計画をたてている。

これに関連し、具体的に研究を共同で始める来年度以降の外部の研究費への共同での申請を考えている。③数量表現にかかわる品詞の問題についての研究が2013年7月にパリで開催される国際会議でのポスター発表に採用された。

## I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

## 1. 目標・計画

①コースHPの充実

現在、様々な情報を得る手段は、主にインターネットになりつつある。

英語コースのHPの管理担当として、院受験希望者のニーズに合った情報をできるだけ頻繁に提供することで、大学院を志望する学生をつかみたい。

そして、問い合わせに対し、迅速で丁寧な対応を行うことで、出願に結び付けたいと考える。

②学会、他大学での情報収集

学会や非常勤先等において、関係者からの学生の進路状況等の情報収集を積極的に行い、可能であれば資料や説明の提供を行いたい。

## 2. 点検・評価

①コースのHPに関しては予定通り、情報の公開のための更新(大学院説明会や入試に関する情報提供など)をできるだけ多く行った。また大学HPのリンクも充実させた。メールでの問い合わせは1件であったが、今後も丁寧に対応を行いたい。

②非常勤先の大学(神戸女学院大学)において、10月広報活動を行った。神戸女学院大学の専任教員に資料の説明を行い、学内にポスターと資料の掲示をしてもらうことができた。また、同室を利用している他の大学からの非常勤講師の方々にも説明を行い、資料を提供し、本学の大学院のことを広めることができたと思える。

## II. 分野別

### II-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

学生の教育・学生生活支援として、以下の内容を今年度は実行したい。

- ①コース内、授業内外での学生とのコミュニケーションを積極的に行い、問題点や悩みなどの早期発見とその解決を目指す。
- ②2年生担任として、状況の把握、または支援を行う。
- ③オフィス・アワーを設け、学生の相談にのる。
- ④ゼミにおいて、積極的に採用試験対策、特に英語力の育成を行う。

#### 2. 点検・評価

上記の計画を予定通り実行した。

特に2年生に関しては、すでに面接も行い、できるだけコミュニケーションをはかり、悩みなどの相談に乗り、勉学への取り組みを促し、学生は積極的に資格試験に挑戦している状況である。

またゼミ学生に対しては、進路相談や英語力の面でサポートを行っている。

### II-2. 研究

#### 1. 目標・計画

研究面での今年度の目標・計画は以下のとおりである。

- ①現在取り組んでいる研究テーマ(上記のとおり)について、成果を発表する(1本は審査中であるが、それに加え、もう1本準備を進めているものを発表したい)。
- ②一昨年度から参加している大学共同利用機関法人国立国語研究所のプロジェクト(日本語学習者用基本動詞用法辞典の作成)に、継続して参加し、研究からの社会貢献を目指す。
- ③本学の一般英語カリキュラム改善への研究を昨年度に引き続き行う。

#### 2. 点検・評価

研究計画は予定を上回り、進めることができた。

- ①学術雑誌で審査中であった論文は採用され、近日発行される予定である(出版社都合で日程が遅れている)。
- ②11月にパリで行われた生成語彙理論の国際学会で研究発表をおこなった。
- ③上記の研究成果に加え、現在名詞と数量表現について進めている研究では、共同研究者(他2名)と2013年度学会でワークショップを開く計画をたてている。
- ④数量表現にかかわる品詞の問題についての研究が2013年7月にパリで開催される国際会議でのポスター発表に採用された。
- ④卒業生と行った外来語についての共同研究が6月の全国レベルの国内学会で採用され、発表の予定である。
- ⑤国立国語研究所のプロジェクトでは、プロジェクトの成果として様々なデータなどが公開されつつある。それぞれの研究成果は、学習者等にとって有用であり、社会に貢献できるものである。  
<http://www.ninjal.ac.jp/research/project/b/youhoujiten/youhoujiten-detail/>
- ⑥一般英語カリキュラム改善に向け、今年度は2年次にも統一テストを行い、1年次からの英語力の変化を分析し、『鳴門教育大学授業実践研究』に投稿中である。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

大学運営に関する目標・計画は以下のとおりである。

- ①就職委員会委員として、学生の就職支援を積極的に行い、貢献したい。
- ②国際交流委員会委員として、留学生や留学希望の学生を支援したい。
- ③学生の英語力についての調査を行うことで、今後の一般英語カリキュラムの改善を目指し、大学運営に貢献したい。

### 2. 点検・評価

計画のとおり、委員会の活動を行った。

- ②に関しては、協定校であるウエスタンカロライナ大学からの鳴門訪問の手配などを行い、学生との交流会をひらくことができた。
- ③に関しては、1年次と2年次の英語の統一テストの成績を分析し、現在の一般英語カリキュラムの課題を明らかにした。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

### 1. 目標・計画

以下の目標を持ち、活動を行いたい。

- ①附属学校での研究会、実習に積極的に参加し、教育・研究面での連携を深めたい。
- ②大学共同利用機関法人国立国語研究所のプロジェクト(日本語学習者用基本動詞用法辞典の作成)に参加し、研究成果を社会に還元したい。このプロジェクトの成果は公開され、国内外の英語母語話者を含む日本語学習者の学習に貢献するものとなるだろう。
- ③公開講座、免許更新講習、アドバイザー事業に積極的に携わり(すべてを予定)、地域への教育研究活動の還元を目指したい。
- ④国際交流委員として、積極的に留学生支援や国際交流活動を行いたい。

### 2. 点検・評価

以下のように計画を進めた。

- ①附属学校での研究会への参加だけでなく、今年度は附属中学校「2年生総合的学習」の担当として、連携して授業を行った。
- ②先に述べたとおり、国立国語研究所のプロジェクトでは、プロジェクトの成果として様々なデータなどが公開されつつある。それぞれの研究成果は、学習者等にとって有用なものであり、社会貢献できるものである。  
<http://www.ninjal.ac.jp/research/project/b/youhoujiten/youhoujiten-detail/>
- ③公開講座、免許更新講習、アドバイザー事業(洲本高校での学問研究ワークショップを担当)を行い、地域への貢献を行った。
- ④国際交流委員として、留学生支援、学生の留学相談などを行い、国際交流の支援を行っている。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)